

後学期授業におけるエアロゾル（マイクロ飛沫）感染対策の徹底を

この3か月余りデルタ株が猛威をふるい、神大生からも「自分が感染した」「身近な人が感染し、自分が濃厚接触者になった」などの報告が相次ぎました。その数は、感染者(7月66人、8月74人)、濃厚接触者(7月75人、8月161人)いずれも過去最大でした。

どんな時にクラスターが起きたのでしょうか。実際に起きたケースを紹介します。

- ・『ドライブ』・・・車内で数時間一緒に過ごし、その間クーラーで涼しくするため窓を閉めたまま、全員感染
- ・『スーパー銭湯・サウナ』・・・マスクを外す場所、特にサウナはほぼ密室、一緒に行った全員が感染
- ・『お友達の部屋に集まり、飲食・おしゃべり』・・・窓を閉め換気せず、マスク外しておしゃべりで全員感染
- ・『BBQ』・・・野外であっても食べる時にはマスクを外す、参加した半数以上が感染
- ・『課外活動』『研究室』『寮』でも、大規模・小規模クラスターが発生

共通するのは、自覚症状(倦怠感・少しのどが痛い・頭痛など)があったが、大したことはない、自分は大丈夫、とコロナを疑わず参加したこと。また、コロナ前から続けた習慣を見直さず、お泊り・飲み会をやっていてクラスターの原因になりました。

濃厚接触者をみると、アルバイト先の同僚と、あるいは友人と一緒にランチをし、その後、その人の感染が判明した。大学の帰り道、1mの対人距離を意識せず、鼻出しマスクで普通に話しながら帰ったなどの事例があります。濃厚接触者に該当すると、症状がなく、PCR検査や抗原検査で陰性でも、約2週間の隔離生活を送ることになります。

後学期の授業が始まり、対面授業でキャンパスには多くの学生・教職員が集います。そこで大規模クラスターが発生しないようにしなければなりません。

私たちがキャンパス内で集団感染を起こさないためにできることがあります。それは、変異株の特徴を十分に理解して一人ひとりが神大のルールを守り感染対策を徹底すること。この協力無くして、クラスター発生を防止できません。

なお、ワクチン接種は発症や重症化を防ぎますが、感染を完全に予防するものではありません。接種した人も引き続き感染対策を徹底してください。

変異株対策の重要なポイントは「エアロゾル(マイクロ飛沫)を吸い込まない」ことです。エアロゾルとは、感染者の会話等で出された空気中に漂うマイクロ飛沫で、会話を続ける限り口から上約1m、前・左右約2mの空間に1時間以上蓄積し、留まります。

その汚染区域に入り、空気を吸った人が感染します。

対策は「とにかく換気する」「人との距離を十分取る」。そしてリスクを半減させるために「不織布マスクを正しく着用する」。この3点を意識し、徹底してください。

神大生のルール No.1～10

全ての神大生のルールはこちらから



9月改定版

神大生の
新ルール No.10

変異株には
エアロゾル対策を

とにかく**換気** 

人と人との**距離感**
 マスクなし **2m**以上 
 マスクあり **1m**以上 

マスクは**不織布** 

ウレタン・布 鼻出し

神奈川大学